wish

寧祈

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ｗｉｓｈ

【Ｎコード】
Ｎ７１５８Ａ

【作者名】
寧祈

【あらすじ】
桜の樹だって恋をする。桜は、公園で毎日会う少年に思いを寄せる。叶わぬ恋とは知っても、思いを伝えたい桜は…。

―桜の樹だって　恋をする―

いつも私に寄りかかってくれるアナタを　好きになりました。

『ねぇ、天使さん。私を人間にしてください』
『本当に少しの間だけしか、人間でいられないよ』
『かまいません。少しでも、あの人とお話したい…』
『でも、願いを叶えた時、君は…どうなるか、分かるね？』
『…はい……』

涼しい風に吹かれ、少年は目を覚ました。いつもはでこぼことした、桜の樹の感触。それが、今日は柔らかい。
「…どうして…？」
少年が目を開けると、優しげな少女の顔が目の前にあった。少年は、少女のひざの上で眠っていた事に気付き、慌てて頭を上げる。
「ご、ごめん！俺、君のひざ借りちゃったみたいで…桜の樹に寄りかかってたと思ったんだけど、その…」
「ううん。私がしたくてしたの。ひざまくら…サッカーの練習で疲れてるんでしょ？将太君」
「えっ！？」
見ず知らずの少女が自分のことを知っていたのだ。誰だって驚くだろう。
「君…誰なんだ？」
「私？私は桜。…ここで、いつも見てたよ。将太君のこと」
桜の樹の中から。そう言いたいのを、桜は我慢した。ここで言っ

てはいけない。今、桜はふつうの少女なのだから。
「私、将太君とおしゃべりしたい。そのために来たの」
限られた時間の中で、少年と出来るだけ近くに…。それが桜の想いだった。

「ふーん、中学生なんだ」
だいぶ将太に自分のことを説明してもらった桜はつぶやいた。
「うん。サッカー部でさ。レギュラー入るために公園で練習してたんだ」
「ふふっ。それは知ってるよ」
「…どうして？」
「この公園で見てたって、言ったでしょ？」
そう。いつも見ていた。そして、練習の後、自分に寄りかかって休む彼を、好きになった。
「…桜と俺って、今日始めて会ったんだよな？」
「うん？そうだよ。将太君とお話したのは始めて」
「だよなぁ…」
将太が首をかしげる。
「どうかした？」
「…いや。なんか、桜とどっかで会ってないかなー、なんてさ」
分かってくれているのだろうか。
桜がいつもどこで、どんな思いで将太を見ていたか。
言うなら、今。伝えるなら、今がいい。今しかない。
「将太君…私…」
その時だった。
『ゴォーン　ゴォーン』
5時の鐘が鳴った。
「あ、家の用事があったんだった！俺、そろそろ帰るな」
「え…将太君」
「ん？」

「…なん、でも、ない」
去っていく将太の背中を見つめながら、桜は力なくつぶやいた。
「…言えなかったね…私…」
でも、桜が人間でいられる時間はあと少し。明日じゃ間に合わない。やっぱり、今だ。
桜は将太を追いかけていた。言いたい。両想いになれないのは知っている。それでも言いたい。

その時、歩道を駆け抜けた桜の目に、衝撃的な現場が飛び込んできた。
歩道に突っ込もうとしているトラック、そして、トラックのまん前で立ち尽くす—将太。
「嘘…っ！」
その時の桜の考えは1つだけ。
桜の樹に戻れば、将太を助けられる。
「将太君！」
桜は叫び、歩道に飛び出した。それと同時に、桜の形に戻っていく。
数秒後、桜の背中をものすごい衝撃が襲った。トラックが桜にぶつかったのだ。だが、大きな桜の樹は倒れない。
少年が驚きに満ちた顔で、桜を見上げた。

「桜…か？」
「…気付いて…くれたの？」
桜が弱々しい声を出す。
「桜なんだな！？」
「あはは…ちょっと…無茶しちゃった」
「…どうしてこんな事」
桜は泣き笑いだった。
「…私…将太君が好きだった…それだけ言いたくて…天使さんに人

間にしてもらったの」
桜の枝が揺れる。そして、はらはらと花びらが落ちていく。
それは…まるで…桜が死期を迎えたような…。
「願いを…叶えてもらったら・・・天国に行くって約束して…人間にしてもらったの」
「…桜は…いなくなるのか？死んじまうのか！？」
何かがふっと、上の方で光った。天使が、桜を連れて行こうとしている。
「ばいばい将太君」
「桜…ッ！！」
「サッカー頑張って…いつでも見てるよ」

それを最後にして　桜の花びらが　散り終えた。
大切な人との別れを惜しむように　ゆっくりと　ゆっくりと。

（後書き）

あとがきまで読んでくださいまして、有り難うございました！これからも精進いたします！

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n7158a/

wish

2010年10月9日03時41分発行